

平成 30 年度 第 6 回 伊勢市障害者施策推進協議会自立支援部会 議事録（要旨）

開催日時 平成 30 年 11 月 6 日（火）午後 1 時 30 分～3 時 30 分
開催場所 御薊総合支所
出席委員 市川知律部会長、嶋垣智之委員、浦田宗昭委員、森見典子委員、川口幸生委員、
奥村比呂美委員、直江敦代委員、大田桃子委員、岡田まり委員、中林英樹委員、
田川奈央子委員
事務局 障がい福祉課長、障がい福祉係長、主査
（庶務担当）伊勢市障害者総合相談支援センター基幹型職員 2 名
傍聴者 0 名

1 委嘱状交付

障がい福祉課長より、川口委員、榎本委員、直江委員、大田委員、岡田委員、中林委員、田川委員へ委嘱状交付。

2 あいさつ

（障がい福祉課長）自立支援部会では障害者施策について議論していただいている。昨年度より、障害福祉計画の検討、地域生活支援拠点の検討をしていただいていた。実際にどのように取り組めるかについては、現在検討しているところ。来年度、相談機能、コーディネーター機能を中心に検討している。伊勢市に不足している部分を、チームによる取り組みを検討していると聞いているので、この部会での検討を進めていただきたい。

（部会長）伊勢市の障害者施策に以前より関わらせていただいている。これからも皆さんと共に地域の課題について協議を進めたい。

（各委員自己紹介）

3 経過報告

●事務局より、以下の検討経過について説明。

①自立支援部会のあり方についての検討（資料 2-1、2-2）

②第 5 期障害福祉計画・第 1 期障害児福祉計画の検討

③地域生活支援拠点の整備にかかる骨子提案についての検討（資料 3-1、3-2）

●部会長より、8 月 31 日の本会における部会報告時のいくつかの質問について説明。

・人材育成・確保に力を入れたほうがよいのではないかと。拠点整備に限らず障害福祉全ての人材確保考えたほうが良いのではないかと、という意見があった。

・概念図をもう少し具体化して欲しい。

・緊急時の受け入れ先の確保ができたとしても、どのような情報を共有すべきか。

・24 時間駆け付けのできるヘルパー事業所をどうやって確保できるのか。

・レスパイトのできる病院はないのか。

等の意見・質問があった。（部会長から）部会でもそれらについて議論の途中ですとお答えした。

本会での意見に答えることも、これからの部会の中で議論していきたい。

【各委員からの意見】

(委員) 資料 2-2 の組織図による、事務局と事務局会議の違いを知りたい。

(事務局) 施策推進協議会と部会は条例で定められている。傍聴もある。事務局として行政が担当部署であることを明確にしている。

事務局会議は、部会・運営会議の事務的な準備、地域のニーズのまとめ等を行っている。行政担当職員と基幹型相談支援センターとで事務的な作業、打合せを行っている。

(委員) 児童発達支援センターの協議は、どこの場ですることになるのか。他部署ですることになるのか。伊勢志摩定住自立圏での取り組みも検討されていると新聞に載っていたがどういう状況か。

(事務局) 児童発達支援センターは、こども発達支援室が主になって進めてもらっている。第 1 期の障害児福祉計画にも明記しているので、来年度の予算化もすすめている。

まず伊勢市として立ち上げて運営していく。その上で定住自立圏の他の市町が賛同していたかどうかというのであれば、一緒にやりましょうという方向になっている。

(部会長) 社会資源の整備の管轄の部署が、違っていたとしても、子どもたちは成長しているので、各部署に関わってくる。部会も全く無関係ということではないと考える。

(部会長) 資料 2-2 の組織図の中の白抜きの矢印と黒抜きの矢印の意味がわかりにくい。組織図全体をもう少し整理したほうが良い。

(事務局) 検討します。

4 自立支援部会の今後の進め方について

●事務局より、プロジェクトチームの立ち上げ・サービス事業所等連携会議の案、自立支援部会スケジュールの案について説明（資料 4、5）

【各委員からの意見】

(部会長) まず、拠点チームの継続については前回の部会の意見として決定し、施策推進協議会本会でも進めてもらうようにとの意見をいただいたので、拠点チームからスタートさせたい。立ち上げのスケジュール、部会の担当委員、チームメンバーの候補者について、部会としての意見をまとめたい。

今までの担当委員から、今までの課題の積み残しとか、具体的に議論する内容についてご意見をお願いします。

(委員) 今までの拠点チームでは、拠点整備のための骨子提案を出さなくていけないということを目的に取り組んできた。限られた時間で全てを議論できたわけではない。方向性を出せた、課題の洗い出しができたというところなので、今後具体的なところを検討していくという必要がある。

また資料 3 の、整備行動スケジュールを考えたときに、2ヶ月に1回の議論だけで間に合うのか、という思いもある。場合によっては会議の回数を増やす必要もあるのではないかと。

また、自立支援部会の委員さんが各チームの担当をした時に、どういった担当の割り振りになるのか気になる。事務局が、今回の委員を選んでいた理由があるのではないかと。

(部会長) 今までの拠点チームのメンバーは地域の力を結集したと聞いている。今回の部会委員も伊勢市において地域の中心になっていただくような方たちが選ばれているのだと思いますが。

(委員) 今まで地域生活支援拠点チームに参加させてもらっていたので、他のチームの担当をさせ

てもらふことはイメージを持ちにくい。どんな開催頻度、どこにポイントをおくべきか等。
(委員) 医療と福祉の連携のために、医療の立場からの意見を取り入れてもらうために頑張りたいと考えている。私が発信して利用者さんの利益になることはできるだけさせてもらいたい。人材を確保しないとできないこともあるので、人材育成のために協力できることがあるかなと思っている。

(部会長) 事務局から担当委員の提案はあるのか。

(事務局) 事務局が決定することではないので、参考意見として。人材確保・育成チームについては人材研修の講師のご経験のある岡田委員、サビ管指導者養成研修終了者の奥村委員、教育分野の中林委員が考えられるのではないかと。また、就労チームについては、今までも就労支援について発信していただいていた浦田委員、特別支援学校で進路指導をされて就労に関する情報網、ネットワークをお持ちの中林委員、就労支援業務を行っている嶋垣委員が考えられるのではないかと。拠点チームについては、いままでのチームでリーダーシップをとってもらっていた嶋垣委員、森見委員、また拠点についてはどの方も関連性はあるのでどの方になっていただくことも可能ではないかと考える。

(部会長) 事務局の意見を参考にしながら、次のようなメンバーでいかがですか。

人材確保・育成チームは、岡田委員、榎本委員、就労支援チームは浦田委員、中林委員、拠点チームは嶋垣委員、森見委員でいかがでしょうか。

(各委員) 了解する。

(委員) 拠点チームの担当は3名でも良いか。直江委員も入っていただくということによろしいか。

(部会長・委員) 了解する。

(部会長) チームの担当委員が決まったので、担当委員と運営会議とで、スケジュール、メンバー構成等について精査してもらうということはいかがでしょうか。

運営会議での議論では、事業所等連絡会議を1月に開催してはどうか、その上で集まっていた事業所の中で人材育成チーム、就労支援チームのメンバーの候補者を選んでいただくということを考えてもらうというのはどうでしょうか、という提案となっている。

拠点整備については、整備を進めるスケジュールを考えると早めのスタートが必要ではないかと考えるが、いかがでしょうか。

(委員) 12月中には開始したい。

(部会長) 担当委員と事務局とで打ち合わせていただいて、次回の部会で報告してもらうということによろしいか。

人材チームと就労チームは、本日は、立ち上げることに担当委員を決めたということで、いつ開始するということはこれからの検討ということによろしいか。

(部会長) 事業所等連携会議については、1月実施という案になっているが、時期については1月を目安としてということによろしいか。

(委員) 連携会議は3月に実施した報告会と同じような内容を想定していますか。

(事務局) 運営会議では、事業所の連携を主目的と考えている。その中から、人材チーム、就労チームのメンバーの候補者を出していただけるとよいのでは考えている。

また事業所連携会議は、ゆくゆくは介護保険事業者連絡会のような自主運営のありかたも意識していただけると良いなどは考えている。

(部会長) 市民向け報告会が括弧書きで書かれているのは、まだ未定ということだと考えるが、部会として市民向けの報告会は年に1回は必要だと考えるが、まずは事業所向け報告会ということまででよろしいか。

今回は事業所連携会と抱き合わせで部会としての報告会を行うということを確認し、部会委員からも協力するということでもよろしいでしょうか。12月の部会で詳細を検討するというのもよろしいでしょうか。

5 その他

●事務局より、自立支援部会あてに『ライブスペース伊勢の！』の共催依頼がありましたので、共催について受けていただけるかどうか、また実行委員として委員さんの中から派遣をするのかについて、ご検討をお願いします。

(部会長) 共催依頼を断る理由も無いので、受けるということでもよろしいでしょうか。

部会から実行委員としての協力については、いかがでしょうか

(委員) 調整可能であれば、協力します。

(事務局) 委員が調整可能であれば部会から派遣する、無理であれば今年は共催のみお受けするというのもよろしいでしょうか。

(部会長) そのほかにありますか。

(委員) 児童発達支援センターは、こども発達支援室が担当と聞きましたが、その中でも情報をこの部会で共有することも可能ですか。

(事務局) そういうご意見があれば、こども発達支援室から部会に説明に来てもらうことは可能です。ただ新たに建てる方向で検討を進めているので、議会での承認などが済んでからになるかと思います。